様式１

【瀬谷区】令和５年第１回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和５年２月 14 日　　９時 55 分　～　11 時 35 分
場　　所	瀬谷区役所５階　大会議室
出 席 者	【座　　長】川口広議員 【議　員：　２名】花上喜代志議員、久保和弘議員 【瀬谷区：３２名】植木八千代区長、村上謙介副区長、 松永朋美福祉保健センター長、 伊藤ゆかり福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 安平博災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員
議　　題	令和５年度 瀬谷区編成予算案（個性ある区づくり推進費）
発 言 の 要　　旨	花上議員：令和５年度予算に対する期待が非常に大きいと思う。説明にあったように、世の中が急速に変化する中で区役所の役割も次第に合わせていかなければならない、先取りしていかなければならないというところもあると思う。横浜市全体の中での瀬谷区、18 区の中の瀬谷区の令和５年度のまちづくりをどのように進めていくのかの基本的な姿勢について、先ほど基本的な考え方を説明いただいたが、その中で瀬谷区民 12 万１千人の皆さんがここに暮らしているということで、地域を回っていると区民の皆さんそれぞれから声を伺っている。昨日電話がかかってきた年配の女性からは「昨今は子育てに力を入れていて、年寄りが住みにくい時代になってしまうのではないか」と大変心配している声が届いた。確かに国も横浜市も方針としては、子育て支援として出産費用の無料化等の様々な政策を打ち出して、それが今の時代に合わせた政策として非常に有意義な政策であると私も理解しているところであるが、それが幅広い世代の方々に恩恵が及ぶようなＰＲが非常に大事であると思う。山中市長は、子育てしやすいまち横浜を作って、それで横浜の活性化を図り、全世代に恩恵がいきわたるような、そういうまちづくりを進

	めていきたい、そういう政策を進めていきたいと言っているので、それはトータルで考えて意義のある方針だと我々も理解しているところであるが、地域で暮らす方々にとっては、年金が減り、物価が高くなって生活が苦しくなっている、さらに今後追い打ちをかけられるというような話が出ていることで、今後の暮らしを非常に心配する声が出ていることはしっかりと受け止めていかなければならないと思う。まずはこうした声に対して区役所はどのように対応していこうという考えがあるのか伺いたい。 植木区長：いろいろと子育てに集中してしまって、多くの世代の方、特に高齢の方がそうした恩恵を受けられなくなるのではないか、というご心配の声があると伺っています。ただ子育てだけに特化するのではなく、子育てを通してあらゆる世代の方が住みやすい瀬谷になるようにということを考えています。特に地域福祉保健計画においても、すべての世代がお互いに活躍することができるといったことを目指しています。そういった中身を地域においてもお話をいただきながら、進めていくことを今取り組んでいるところです。 花上議員：基本的な考えはそういったところで我々も理解しているが、日々を暮らしている市民の皆さんにとって、入ってくる子育て支援という情報は高齢者等には関わりのない話と受け止められているという実態が、先ほどの話に表れているのではないかと思う。山中市長が言っている子育てしやすいまち、それによって横浜を活性化して全市民に恩恵が行きわたる政策を展開していくのだということを地域の方々に理解していただくためのそうした工夫が必要であると申し上げており、できるだけ全世代に渡って瀬谷区役所は対応していくという基本的な姿勢を持ちながら区政を進めてもらいたいと要望する。 　花博はあと 1,500 日というところまで開催時期が迫ってきており、昨日も建築局・都市整備局・道路局の常任委員会でいろいろと議論をしたところだが、具体的に令和５年度からは本格的な事業が始まっていくことになるが、瀬谷区内で旧上瀬谷通信施設の跡地で既に米軍施設の撤去作業がいよいよ始まってきており、瀬谷区がこれからかなり変貌を遂げていくという状況が見えてきたと思う。まず多くの方が仕事などで瀬谷区を訪れる時期に入ったので防犯対策をしっかり進めてもらいたいと、瀬谷警察署長に直接何度か会ってお願いをしてきた。警察もある程度の

	情報は持っているが、具体的な内容についてまでは理解していないため、区役所はできるだけ瀬谷警察署と連携を取りながら瀬谷区内で新たな犯罪が発生しないような話し合いをしていってもらいたい。警察署は神奈川県の所管であることから、横浜市との意思疎通で難しいところもあるが、区役所と瀬谷警察署は一体となって防犯対策に取り組んでもらわなくてはならない。いよいよ瀬谷の新時代に入ってきたのだという認識を持つべきであると思うが、そうした中で犯罪を無くしていくために瀬谷警察署と連携して取り組んでいくこれからの考え方について伺いたい。 植木区長：確かに大勢の方がいらっしゃると、この頃いろいろな事案も起きているということもあってご心配の件もあるかとは思いますが、ただ今までも警察とは連携をとりながらいろいろなことに対応しております。区連会等にも警察に出席いただいて、今の犯罪の発生状況や気を付けていただきたいことについて自治会を通して周知していただくような形もとっています。細かい事案が起きた時も情報を共有しながら、必要な地域の方にご連絡をとって備えていただくという対応もしています。ご指摘のとおり、いろいろな形でお住まいになっている方だけではなく、様々な方がいらっしゃる時期になりますので、区役所と瀬谷警察と情報共有をしながら対応してまいりたいと思っています。ご指摘ありがとうございました。 花上議員：くれぐれもよろしくお願いしたい。この４月からいろいろな人たちが仕事をするために瀬谷を訪れるということになってくる。そうなると人がいろいろと動いていくので、それに伴って犯罪だけでなく、いろいろな新たなまちづくりにも大きな影響を与えることになる。花博が有料入場者数 1,000 万人、関連の人を入れると 1,500 万人が６か月間でお見えになるという壮大な計画であるため、これに合わせて全国各地から仕事でお見えになる方がいて、また外国人の労働者も来るということになるので、住宅やホテルの問題、あるいはショッピングセンターなど様々なニーズが出てきたら街が変わっていくと思う。先行きを見通した中で、そうした変化が瀬谷区で出てくるということになると、区役所としては先んじてそうしたことに対する対策を考えていかなければならない。花博の後はテーマパークを作るとか、新交通システムを敷くとか、物流センターができるとか、様々な計画が目白押しである。これか

	らは瀬谷の時代と言っているが、これまではみなとみらいが横浜のまちづくりの大きな話題であったのが、これからは郊外区の瀬谷の時代、大きく変わる瀬谷は横浜市全体にとっては壮大なまちづくりの計画が進んでいくという認識を持たなくてはならない。市役所と連携をしながらこうした変化に対して十分な予測を立てて、区民との接点である区役所が対策を講じていく、そういう本格的な準備に入る時期ではないかと思う。こうした瀬谷区のまちづくりの今後を見据えて、瀬谷区役所はどのような体制で対応しようとしているのか、考えを伺いたい。 植木区長：ご指摘ありがとうございます。先日 1,500 日前イベントで区役所でも切り花の配布を行いました。その時にいらした方が「楽しみにしているが、親戚を呼ぼうと思っても瀬谷区の中で宿泊する場所がないので何とかなりませんか」とおっしゃっていました。お話いただいたように区民の方が期待していること、いろいろな場面で区役所として耳に入ったことをしっかりと市役所にも伝えて対策をとってまいりたいと思っています。また、来年度の予算で実施する区民意識調査においても、そのあたり区民の方がどのような意識をお持ちなのか確認をしたいと考えています。 花上議員：花博について先ほどの説明にもあったが、連合町内会長が中心となって瀬谷区国際園芸博覧会推進協議会を作って市長にも要望を提出するなど、いろいろと具体的な活動をしているが、やはり区役所と瀬谷区民が一体となってこの国際園芸博覧会に取り組んでいくという姿勢が機運の醸成という面で大きな効果があると思う。瀬谷区国際園芸博覧会推進協議会の方々と区役所が一体となっていろいろな仕掛けをしていくべきではないかと考えるが、今後の方向性について伺いたい。 植木区長：先ほどご説明した瀬谷シティプロモーション事業の中の国際園芸博覧会機運醸成事業の中の拡充事業として、瀬谷区国際園芸博覧会推進協議会が主体的に動けるように補助金の創設も考えて、区役所と協議会が一緒に進めてまいりたいと思っています。 堀内区政推進課長：協議会には区内の各界を代表する皆様、連合町内会長だけではなく各種団体や企業も入っていますので、様々な視点からご意見をいただきながら区役所も一体となって取り組みを考えていきたいと思います。事業の実施にあたっては区役所がしっかりとサポートして取り組みを進めてまいります。お話のあったとおり、５年度から機運醸

	成が本格的にスタートするので、その波に乗り遅れないようにしたいと思っています。 花上議員：いずれにせよ国際園芸博覧会というビッグイベント、ビッグプロジェクトは初めてのことなので、対応も手探りのところもあろうかと思う。まして国家イベントということなので区役所として何ができるのかということもあろうかと思うが、そうは言っても機運の醸成は非常に重要であるという状況になってきたので、地域住民の皆さん、瀬谷区民の皆さんと区役所が一体となったそうした機運の醸成への取り組みが大切である。 　今後のまちづくりという点で、３月 18 日には相鉄・東急直通線が開業し、人の往来が大きく変わってくるが、それに合わせた対策としていくつか対応を考えていかなければいけない。３年前に相模鉄道の役員と話し合いをして、相鉄・東急直通線と相鉄・ＪＲ直通線の神奈川東部方面線が開通することになって、瀬谷区で花博が開催されてその後のまちづくりがどんどん進められていくということになれば、瀬谷駅の拠点性が大変高まるので、相模鉄道もそれに対応して特急を瀬谷駅に停車させることを検討してもらいたいと話をしてきた。その後、相模鉄道ではその方向性で内部での検討が進んでいると聞いている。こうしたやらなくてはならないことを区役所としても働きかけをしていく必要があろうかと思う。花博そしてその後の上瀬谷のまちづくりを睨んで、是非区役所として様々な対応策を講じてもらいたいと要望する。 　先ほど子育て支援の話をしたが、先般痛ましい事件が起きた。今日の神奈川新聞にも大きく出ているが、死産だったと聞くが、宮ノ腰公園でお子さんを埋めたという痛ましい事件であった。今日の記事を読むと本人は的確なところに相談に行くということはなかったようだ。区役所としてこうした妊娠、出産、子育てトータルで考えてしっかりとした体制を作っていかなければならないと思うが、今回の事件の教訓を受けて考えるところについて聞かせていただきたい。 松永福祉保健センター長：今回の事件は私どもにとっても大変悲しい事件であったと思っています。母子手帳の受け取りの際などに相談に来ていただければ、そこから先のサポートもできますが、今回の方のように相談すること自体を迷われている方もいらっしゃるということについて、いかに相談しやすい雰囲気を作っていくのか、相談を受けられる場

	所が区役所にあるということを知っていただくことが大事であると思っています。市全体でも来庁についてのハードルが高い方もいらっしゃいますので、電話やメールで相談できるような「にんしんＳＯＳヨコハマ」という相談の窓口を作っており、こちらでも匿名での相談をお受けしていますので、そうしたことの周知をもっとしていかなければならないと考えています。近々広報よこはまの３月号でもこうした窓口のご案内をしていきたいと考えておりますが、折に触れて情報を周知していきたいと思っています。 花上議員：くれぐれも対応策をしっかり講じていただきたい。相談する窓口がわからないといったことではなく、日頃からＰＲ活動をしっかりして「そうか、瀬谷区役所に話を持っていけば親切に対応してもらえるんだ」ということが分かるような、そういう取り組みをぜひお願いしたい。 　先ほどの上瀬谷のまちづくりの中で、野球場が使用できなくなるということで、５月いっぱいで撤去して欲しいと野球協会が言われているとのことであった。市民レベルのこうしたスポーツにおいて、あちこちグラウンドを探さなくてはならないというところにきていると思う。そうなったら学校が使えるとか、いろいろなところを探し回ってグラウンドを確保しなければならないといったことになってくるが、こういった点について区役所としては何らかの対応を考えているのか。 植木区長：上瀬谷にいくつかある野球場が使えなくなるということで、皆さんお困りである状況にあることは承知していますが、区役所としてご案内できる代わりの場所がない状況にあります。それぞれでお申し込みいただくことになると思いますが、瀬谷西高校が今年の３月で完校となるため、グラウンドの一部が一般開放されるという話も聞いています。ただ、横浜瀬谷高校で使用する際には一般使用はできないという話もありますので、ご相談があればどのような形の一般開放があるのか情報提供させていただきたいと思います。 花上議員：瀬谷西高校の話は地域でもよく出てくる。瀬谷中学校の移転先として考えたらよいというような要望もあるが、かなり先の話になろうかと思うので、その間の瀬谷西高校の利用についての考え方はしっかり方向性を考えていかなければならない。瀬谷西高校は県立で神奈川県の所有であることから、横浜市の思い通りにならないところもあると思

	うが、廃校になった以上は地元の瀬谷区にとって使い勝手のよい前向きな対応をしていただくことが大事である。瀬谷西高校のグラウンドのみならず、建物を含めてどのような話し合いが行われているのか、現状分かっていることについて教えてもらいたい。 森田総務課長：先日、新しい瀬谷高校の職員の方とお会いする機会があり、瀬谷西高校の跡活用について話をさせていただきました。今、区長から申し上げたとおり、瀬谷西高校は４月から横浜瀬谷高校の管理になりますが、一部体育館とグラウンドが引き続き一般開放されると聞いています。もちろん抽選や事前の申し込みが必要になります。また、我々の地域防災拠点の中で補充的避難場所という位置づけにもなっておりまして、こちらについても引き続き補充的避難場所として活用できるように今調整を進めているところです。なお、来年の後半に瀬谷高校のグラウンドの改修が行われると聞いております。したがって、今区長から申し上げたとおり、横浜瀬谷高校の授業や部活での使用が優先になると聞いております。 花上議員：日向山小学校が神奈川県横浜ひなたやま支援学校に変わったが、あれは県に所有権を渡して障害者の高等養護学校になったといういきさつがある。今度の瀬谷西高校は逆で、県の所有の学校であるが、横浜市が管理・運営を直接取得して、使えるようにするのが一番適切ではないかと地域の方々は期待している。そのような話し合いは今のところはないということか。 森田総務課長：今のところそのような話は聞いておりません。 花上議員：いずれにせよ神奈川県も大変な財政難にあり、できるだけ所有している財産を高度に利用していくための様々な手立てを考えているということで、貸すなり売るなり、そうしたことは今後可能性があるのではないかと思う。区役所レベルの話ではないかも知れないが、教育委員会になるのか分からないが、是非区もいろいろと情報を集めて区役所が中心となって利用できるような、そうした形態が考えられるように是非前向きに取り組んでもらいたい。 　最後に、商工業の発展について、商店街では今も深刻な状態が続いていて、飲食店関係者からはもう先行きやっていられない、という悲痛な話を伺っている。先日食品衛生協会の会合に出席したが、ひと頃に比べてどんどん人が減ってきてしまい、今後の展望も全くないというような

	暗い話を聞いたが、商店街に対する取り組みとして、現状認識そして今後の方向性について何か情報等があれば聞かせていただきたい。 村上副区長：コロナの影響も含めてであると思いますが、どうしても今商店街の利用が減ってきていると伝え聞いています。商店街というものがどういった位置づけなのかということを考えると、地域の賑わい或いは人との繋がりの場、そういった意義も非常にあるかと思っています。商店街の元気が瀬谷区の元気、と言っては大袈裟かもしれませんが、そういった意味で非常に大事なことであると思っておりまして、来年度予算におきましては、そういった認識のもと、商店街の皆様が持つ課題などを整理しつつ、今後に向けた方向性を是非区役所としても一緒になって取り組んでいきたいと考えています。 花上議員：総論としてそのようなことだと思うが、具体的に商店街を活性化していく取り組みは、やはりいろいろな情報を商店街に提供して、それでいろいろなメニューを商店街の方々にお教えして、こういう取り組みが全国的にはあるので瀬谷でもどうですか、というような働きかけも必要なのではないかと考える。しかし、個店の繁盛を考えるのがまず第一なので、なかなか商店街全体としてはそこまでの取り組みが進んでいかないというところがあるようだが、今おっしゃったように商店街の賑わいはまちの賑わいである。商店街の方々は地域の様々な活動にもこれまで協力して、まちの活性化に寄与していただいたのが、最近商店街が廃れたためにまちの賑わいも失われてきているという悪循環の状況になっている。是非区役所としても、瀬谷はちょっと違うぞ、と思うような取り組みをしていただくように努力していただきたいと要望しておきたい。 　子供たちの将来を考えると、やはり日本はものづくりで育ってきた、成長してきた都市なので、ものづくりについて子供たちが関心を持ってこれから世に出ていく、リーダーになってもらう、これからの日本の産業をリードしていく人材を育てていくことが非常に大事ではないかと思う。戦前戦後の横浜の歴史を見れば、まさに京浜工業地帯の中核都市としてものづくりの重厚長大で発展してきた地域である。今はＩＴなどが中心で重厚長大から軽薄短小の時代と言われるが、そうした時代の変化の中でも横浜はまちづくりというのが大変大切であると思う。特にものづくりについて瀬谷区内でも立派な工場があることも事実で、我々も素

	晴らしいなと思う経営者が何人もいる。そういったところにも目を向けて、商業の発展とともに工業の発展のために特に若い人材を育てていくための体験学習、学校の生徒が瀬谷区内の工場などの現場に行ってものづくりの実態を見てもらう、触れてもらうそういった機会が大事ではないか。こういった点について、ホームページを作ったりして区役所も頑張っていただいているが、今後新しい時代のものづくり産業について、瀬谷区内の発展を支えるための何か手立てを考えているのであれば教えてもらいたい。 松岡地域振興課長：工業の発展について子供という視点からの取り組みということになると、瀬谷っ子体験事業というのがありまして、西部工業会の参加企業の皆さんに協力いただいて、小学生を対象に工業の体験講座を実施しています。一つの例を挙げますと、横浜ステンレス工業で子供たちにステンレスの溶接の技術を体験してもらうという事業を夏休みに行っていますが、申し込みも多数いただき、非常に熱心に参加していただいています。過去に参加したお子さんが高校を卒業してステンレス工業に入社したというようなこともありましたし、今回参加した子供の中でも腕のいい子はそのまま就職しないか、と社長がスカウトするようなこともありました。また、講座を行うに当たっては、若手の社員の方々が講座の組み立てを一から考えていただきましたが、私も一緒に溶接をやらせていただいた時に非常に教え方が上手くて、どう教えたらよいのかを考えていただいたことを感じました。そうすることで若手社員の仕事の満足度の向上による離職率の低下にも繋がり、別の側面の効果もあるのではないかと思っています。工業のＰＲという点では、今までは西部工業会の会員企業のポスターを区役所内で掲示していましたが、今年度は実際に工業製品の展示も始めました。ステンレスをバナナの形に加工しているものを区連会の時にもお見せしましたが、連長さんからも「凄いね、地元にあるのだからちゃんとＰＲしなくては」という声をいただきました。ＰＲをさらに深めていければと思っています。 花上議員：横浜ステンレス工業の話は非常に良かったな、と思いながら伺った。それだけではなく私も現場を見てきたが、独楽回しで五光発条さんもすごい技術を持っていて、あとは環境のオオスミさんなど瀬谷区内の企業が本当に頑張っている実態を我々もよく知っているので、是非有能な人材が今後瀬谷から世に出ていけるように、区役所としてもでき

	ることをお手伝いいただきたいと思う。 久保議員：４ページの災害対策事業で、災害はいつ起こるか分からないというところでは非常に大事な事業であると感じているが、地域防災総合講座について今回 Web 併用で行っていくとのことだが、どのような内容か伺いたい。 森田総務課長：区民の方々への防災の啓発を主とした講座です。今年度は 11 月に区役所のこちらの会議室で開催しましたが、30 人程度の区民の方にお話を聞いていただきました。国崎信江先生という方の講義で防災に非常に役立つお話でしたので、２月の下旬から Youtube でも公開してさらに多くの区民の方に啓発させていただきたいと考えております。 久保議員：有事の取り組みについては、様々試行錯誤しながらその年度年度によってあると思うが、地域を回っていると防災訓練も頻繁に行えるようになってきていると思う。平時の取り組みがいざという時に役立つというのが大事なことであると思うので、是非様々な取り組み、またこうしたオンライン、Web 等も使える時代になってきたので活用はありがたいのでよろしくお願いしたい。 　５ページに防災スピーカー運用及び維持管理とあるが、かねてから区内の境川流域の防災スピーカーについては地域の様々なお声があるということでお伝えさせていただいてきた。大枠は説明を受けたが、防災スピーカーについては市役所で整備したものと区役所独自で整備したものがあって、実際その運用に違いがあるということだが、区民の方にとって運用の中身はよく分からないのではないか、ということを伝えたところである。スピーカーの運用について様々皆様と話し合いをしたと聞くが、どのような内容であったか。 森田総務課長：おっしゃるとおり、市役所が設置した防災スピーカーが瀬谷区内に 11 基ありまして、こちらは J アラートをはじめとする地震の情報など市内・区内全般の情報を流すスピーカーとなっています。一方、境川流域に設置した防災スピーカーについては、境川流域の避難所設置など川の増水対策のために設置したスピーカーです。こちらについては、どのような場合にスピーカーから音声が流れるのか、区民の方々に周知されていないという課題がありました。昨年５月の区連会において境川流域の防災スピーカーは避難情報をお知らせるためのスピーカーですということをしっかり区民の方、流域の方に伝わるように周知させ

	ていただいたところです。 久保議員：境川を隔てて、向こう側の大和市とこちら側の横浜市で運用が違っているということだが、住んでいる方にとっては向こう側の大和市のスピーカーからはいろいろな声が聞こえてくる、向こう側は消防車というか、赤色灯を回した車が来るが、瀬谷区側ではそうではなかったという声があった。実は運用が違うという認識が不足していたという課題について尽力いただいたことについて感謝したい。 令和５年度予算編成に向けた区提案において、防災スピーカーの年間保守管理とあるが、どのような提案を要望したものか。 森田総務課長：ただ今申し上げた境川沿いの防災スピーカー４基につきましては、現在区独自で運用しているものですが、その維持管理のために区づくり推進費から年間 200 万円以上執行していますので、市役所の予算で一緒に保守点検をしてもらえないかという要望を局に対して行いましたが、区で対応してもらいたいという回答でした。 久保議員：設置したからにはその後の費用がかかるということは保守の課題ではあるが、とは言えすべて区の予算で対応することはなかなか難しいことから私自身も注目していきたい。 14 ページの子育て支援事業の中で障害児支援パンフレットの作成を新規事業として行うとあるが、この事業の狙い、どのようなことを行っていくのか、また新たにパンフレットを作成・配付するとのことだが、どのようなところに配付するのか、どのような配付の仕方をするのか。せっかく作成するのであるから伺いたい。 小澤こども家庭支援課長：障害児支援パンフレットを今回新規で作成することとしていますが、実はこれまでマップという形で障害児のいろいろな施設を紹介するものを作成していました。ただ、その中では所在地や連絡先は分かるのですが、具体的な施設の内容が分からないということで、今回は障害児が通える事業所について、もう少し詳細な内容を加えたご案内を作成することを考えています。区内の障害児通所支援事業所 20 か所を掲載する予定です。1,000 部作成する予定で、配付の方法につきましては、この施設を利用される場合は必ず区役所での申請が必要になりますので、区役所で配付を行う形になると思っております。 久保議員：これとは違うが、計画相談というものがあって、障害をお持ちの方などが、どのような自分たちの将来の設計をしていくのかという

	こともあって、なかなか横浜市では実施率が低いと伺っている。それが来年度予算ではそれに対する予算も措置されたと聞いている。やはりどのようなニーズがあっても、それをマッチングさせることはなかなか難しいのが一つの課題であると考えている。今回新たに障害の内容を紹介するようなことも伺ったので、より効果的になればとよいと思うので、しっかりと進めてもらいたい。 　18ページに新規事業として生活困窮者自立支援推進事業とあるが、ひきこもり状態の方への適切な支援ということで伺っている。実際瀬谷区において、ひきこもり状態にある方は推定でどのくらいいらっしゃるのか。 中村生活支援課長：正確な数字ではありませんが、今年度こども青少年局が行った実態調査の市全体の数字を踏まえて、瀬谷区の人口から類推すると、ひきこもりの状態にある方はおよそ1,000人程度ではないかと考えております。 久保議員：1,000人というのは結構いらっしゃるなという印象である。公明党市議団としては、ひきこもり状態の方を早期に発見していく、ひきこもり状態になる前に、というのが本当は理想であるが、かと言ってそれはなかなか難しいことではあるし、所管自体も区役所ではこども家庭支援課、市役所ではこども青少年局、年齢を重ねると区役所では高齢・障害支援課、市役所では健康福祉局になって窓口が一本化されていない。切れ目のない支援ということ、早期発見していくこと、もう一つはできるだけアウトリーチして訪問する中で様々な声を拾っていくということも大事であると考えているが、これは実はなかなか難しいことであるということも承知はしている。とは言え、おかずの買い出しにも困る方は多い。私も何人か接しているが、ひきこもりの方はなかなか外に行くというのが難しい状態にある。障害のことを気にしていらっしゃる方もいる。そのような中で瀬谷区としてどのような対策を講じているのか。 伊藤福祉保健センター担当部長：横浜市全体でも引きこもりに対する支援が重視されておりまして、今年度健康福祉局においてもひきこもり支援課が設置されて対応も始まっているところです。早期発見、早期からの対応、そして切れ目のない支援についておっしゃっていただいたとおりですが、まず相談の窓口としては、やはりお一人お一人抱えていらっ

	しゃる事情が様々でして、最初に繋がった窓口、例えば区役所の窓口でしたら、こども家庭支援課ですとか、生活面での支援がメインの方でしたら生活支援課、障害の関係でしたら高齢・障害支援課などにご相談いただいた方にはまずそこでご相談をお受けして適切なところにお繋ぎしています。また、年齢によらずというところでは、今年度の５月にこども青少年局と健康福祉局合同で、全年齢を対象にした市民向けの相談専用ダイヤルが開設されています。まずはそちらに電話をいただければ、状況に応じた適切な支援をご案内できるようになっています。また、アウトリーチにつきましては、ご本人が外に行きたくてもなかなか外に出ていきにくいといった状況もあるなど、非常に繊細な対応が必要になると考えております。そうした意味で、まず地域の周りの方や支援機関の方に対してひきこもりの方への支援としてどのような対応がよいのかといった知識を得ていただけるよう、講演会等を開いていきたいと思っています。 久保議員：市役所でもひきこもり支援課が新たに設置されると聞いている。それが区役所においてどうなるのかということについては、一口で言っても難しいところがあると思うが、拡充されればと考えている。 　22 ページの瀬谷シティプロモーション事業について、2027 年の国際園芸博覧会に向けた機運醸成をしっかりやっていくことも非常に大事であるし、正式名称がＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯ2027 に決まったということもある。かねてより定住促進、移住促進について質問させてもらったが、今回ターゲティング広告事業ということで、相鉄・東急直通線の開業を機に車内広告を掲出するとある。どのような方々をターゲットとするのか、また東急目黒線、都営三田線、東京メトロ南北線とも直通運転が始まるが、どのエリアの方に対しどのような狙いで実施するのか。どのような内容を訴えていくのか、瀬谷区のどういう魅力を訴えていくのか伺いたい。 堀内区政推進課長：相鉄・東急直通線の開業はこれまで瀬谷区とご縁が少なかった方、東京の北部の郊外部や埼玉県内などにお住いの方に瀬谷区をＰＲする絶好の機会と考えています。今年度も同じ沿線の旭区と連携して相模鉄道のプロモーション活動と一体となったＰＲとして、ミキハウスが発行するＨａｐｐｙ－Ｎｏｔｅ　Ｆｏｒ　マタニティという出産される方向けの雑誌にアカチャンホンポなどの店舗や産婦人科等で配

	架されているものに、瀬谷区の記事を掲載しています。主なターゲットは定住していただきたい子育て世代を考えています。実施路線につきましては、先ほど副区長から説明させていただきしたとおり、東急東横線、都営三田線、東京メトロ南北線を予定しており、引っ越しシーズンを狙って２月頃に広告を出したいと思っています。広告の内容は、やはり瀬谷区は緑が多いことから、子育てのしやすさといったところを中心にＰＲしていきたいと思います。２月に向けてどのようなＰＲの方法が最適かということを検討し、広告が効果的になるようしてまいりたいと考えています。 久保議員：車内広告は液晶パネルで視覚に訴えるものだと思うので、華やかなもの、行政が作るものだとあまりパッとしないものもあるので、見た方がいいなと思うような印象を持てるようにしてもらいたい。花博もあるので、そのように期待をしている。 　境川の相鉄の線路と交差するＳ字の急なカーブになっているところに黄色い防災スピーカーが設置されているが、境川が県の所管であるというところで、道路局に聞いても県との調整を進めているということであった。とは言え瀬谷区にとっては先ほどの境橋のところの浸水対策についても非常に根強い声もあり、心配なところである。もう一つは線路の南北についても、現在土嚢を両サイドに置いている状況だが、県に確認したところ、令和 11 年を目途に事業を行うと聞いている。相鉄線のところの工事については簡単にはいかないと承知はしているが、瀬谷区としても一刻も早くやっていただきたいという声を県に伝えてもらいたい。 堀内区政推進課長：境川の改修の進捗状況については、道路局を通じて区役所としても共有させていただいています。相鉄線との交差部の改修工事に関しては、横浜市として昨年の 12 月に県の予算要望という形で早期実現を要望しました。区役所としても、ご指摘いただいたように区民の方からいろいろご要望をいただいていますので、道路局を通じて要望していきたいと思っています。また、区役所と県の組織と直接やり取りをさせていただく機会もありますので、そうした機会を捉えて要望させていただきます。 井田土木事務所副所長：治水部署に現在の進捗状況を確認したところ、相鉄との間で工事のための協定締結準備に入ったと聞いております。現在進んでいるということについて確認をさせていただいています。

	久保議員：引き続きしっかりやっていくことを要望させていただきたい。 川口議員：事前に質問する項目をいくつか伝えているが、それ以外のところで、先ほど花上議員、久保議員からも話があったが、２月８日に略称としてＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯという名前になって、昨日花上議員と一緒に都市整備局の常任委員会に出席したが、質問する際に我々としても非常に悩ましいところで、花博という言い方をすればよいのか、ＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯというのをもっと押し出すべきなのか、どうしたらよいのかと思っている。区役所として、今の段階でどのように名前の使い分け、使い方をするのか参考にさせていただきたい。２月 20 日に総会を開催すると思うが、そこでどのような扱いをしていくのか、ご意見を伺いたい。 植木区長：今現在でも、園芸博と言われる方、花博と言われる方、いろいろいらっしゃる状況です。聞く人によってはまるで違うイベントと捉えられてしまう誤解もあり得るので、正式な略称が決まったのであればそちらの方をこれからは使うようにしていくのがよいのではないかと思っています。ただ今急に変えると混乱が予想されるため、ロゴマークも正式なものが決まりましたので、そうしたものを打ち出す際には正式な略称でお話をするように変えていった方がよいと考えています。まず、今園芸博と言っているものがＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯという名前に変わったというところから周知をしていかなくてはならないと思います。 川口議員：これに関連して、先ほどの東急目黒線等におけるターゲティング広告での打ち出し方としてＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯとするのか、それについてはいかがか。 堀内区政推進課長：今ＰＲしているものについては間に合いませんが、来年度のＰＲは１月、２月頃を予定していますので、ＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯも含めてどのような打ち出し方をしていくのがよいか検討してまいります。先ほど久保議員からお話をいただいたように、インパクトのあるＰＲをしていきたいと思っていますので、その中で検討していきたいと思っております。 川口議員：１月中に進めていたことについては、２月８日に発表であったので間に合わなかったところがあると思うが、今後はどのように名前を使っていくのか、これが略称ということであるので、世界中に発信さ

	れるのはおそらくＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯという名前になると思う。今のうちから使っていくことよって、区民の方々、市民の方々にＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯが 2027 年に開催されるということについて、改めての認知を図っていかなければならないと感じている。 　もう１つ、今日記者発表されている旭区の乗り合いタクシーについて、我々も地域のまちを歩く中で地域交通や買い物困難者の皆様から様々なご依頼をいただいているところだが、この乗り合いタクシーも一つの解決策かと考えている。旭区の本宿東部地区において実証実験という形で開始されるとのことだが、これは都市整備局から話が下りてきて実施することになるのか、それとも区役所からやりたいという声を上げれば何とかこじ開けることができるものなのか、どのような経緯で旭区において実施できることになったのか伺いたい。 堀内区政推進課長：申し訳ございません。旭区の件は承知しておりませんでしたが、地域交通の取り組みについては道路局で所管しており、瀬谷区でも瀬谷第四地区で二ツ橋の土地区画整理事業の進捗に合わせて、バス事業者に新しいバス路線をひいていただくように交渉する、或いは乗り合いタクシーというお話がありましたが、ワゴン車を地域の方々で運営して買い物難民の救済に当てるといった議論はしているところです。連合町内会長が前向きに毎月各町内会のニーズを拾って今検討しています。 川口議員：お話のとおり道路局も行っているが、今回記者発表を行ったのは都市整備局で、都市整備局が行っているものもある。市役所としても年齢を重ねた方々、免許を返納された方々がどのように買い物をしていけばよいのかということに対する解決策、ラストワンマイルのところを解決しようと努力している。瀬谷区の事情を知っているのは区役所であると思う。私としては実証実験の件は旭区にとられたという感覚がある。今後市役所と話し合う機会があれば、是非瀬谷区でも、という話をしていただきたい。 　資料６ページで、道路局所管になると思うが、瀬谷駅南口にも新たに放置自転車対策として駐輪場が設置された。駐輪場には何台停められるのか教えていただききたい。 井田土木事務所副所長：今回、瀬谷駅周辺に４か所整備しました。相鉄線の南側、環状４号線の下になりますが、セブンイレブンとあじさいプ

	ラザの間に 54 台、また、踏切北側の西の植栽帯があったところに 73 台、そこから少し北側の環状４号線の下側に 11 台、瀬谷中学校の交差点に 45 台、以上の合計で 183 台確保しました。 川口議員：今の説明で４か所に分かれているとのことだったが、自転車を停めようと思った方の捌き方はどうなっているのか。勝手に入って来られるのか、駐輪場に立っていらっしゃる方が誘導するのか。 井田土木事務所副所長：把握できていません。 川口議員：後ほど調べて、私の方からも情報を共有できればと思う。 　続いて９ページの生ごみ堆肥化による区内緑化について、副区長から三ツ境駅周辺で実施すると説明があったが、コンポストを使ってどこで堆肥化するのか。 堀内区政推進課長：自宅で出た生ごみを使って各家庭で堆肥化に挑戦していただくというものです。マンションにお住いの方など、今までなかなかこうした取り組みをする機会のなかった方に是非ご参加をいただきたいと思っています。できた堆肥については、三ツ境駅に設置予定の花壇に使用します。 川口議員：それぞれのお宅で作っていただいた堆肥、肥料をどこかで回収するということか。 堀内区政推進課長：そのとおりです。 川口議員：拠点があるのか。 堀内区政推進課長：設置の際に区役所で回収する予定です。 川口議員：コンポストを使って堆肥化する際に臭いの問題が出てくるという話を伺ったことがある。お宅でやる時にも臭いの問題のほかにも、虫が来るということも聞いたことがあるが、そのあたりの認識はいかがか。 堀内区政推進課長：堆肥化はキットを使用しますが、キットは臭いが発生しにくいような設えになっています。また、室内等で行うので虫対策は各家庭にお願いをしたいと考えています。 川口議員：花博、ＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯに向けて、こういった循環型社会をアピールする場でもあるので、地域から出る生ごみを堆肥化してそれを再利用する取り組みは、世界に打って出る非常によいアピールになるとは思うが、お宅でやる場合には臭いや虫の問題が出てくる可能性があるので何かしら対応できるようにしていただけたらと思う。一方で、

	瀬谷西高校が３月で廃校になってしまうが、フラワーロードプロジェクト、フラワーループというかたちで宮沢に事務所がある横浜環境保全さんと一緒になって、植えた花を抜き取ってそれを肥料に変えて、肥料に変えたものでまた花をつくっていくという取り組みをしている。瀬谷区内に事業所のある横浜環境保全さんも知識も非常に豊富であると思うので、可能であれば連携を取りながら情報交換してもらいたい。 堀内区政推進課長：区役所として初めての取り組みですので、そうしたノウハウを共有させていただけたら非常にありがたいことだと思います。 川口議員：18 ページの農福連携について、２月中あるいは１月後半に講習会等を開いたと伺った。都筑区にも視察に行くと聞いているが、今までの進捗状況と今後どこへ向かっていくのか、方向性について伺いたい。 吉川福祉保健課長：農福連携について、これまで区内の福祉施設に対して関心等についてヒアリングを実施してきました。その結果、区内の福祉施設では興味や関心はあるのですが、どのように進めればよいのか分からないという声も多く、まずは勉強していきたいという施設が幾つかありました。これを受けて実際に勉強会を昨年の 12 月に開催しました。主に瀬谷区の障害者の地域自立支援協議会の日中活動部会の方々に声を掛けて、既に実際に実施している青葉区の施設の方を講師として勉強会を行いました。来年度はこの勉強会を継続して、現在のメンバーで実際に青葉区や都筑区の施設を見学し、さらに今後どのように進めていくのか検討して、事業実施に向けた意識の醸成を図っていきたいと考えています。 川口議員：今の説明で 12 月に行った講習会に事業所さんが参加したことは理解できたが、農家さんは参加したのか。 吉川福祉保健課長：その時はお声掛けした福祉施設の事業所さんから知り合いの農家の方に声を掛けていただいて、農家の方もご参加いただきました。 川口議員：農福連携ということであるので、農家さんと事業所さんと区役所が情報交換しながら、さらにさらに先に進んでもらいたい。 　20 ページの国際交流支援事業について、横浜市 18 区ある中でそれぞれの区によってそれぞれの課題があると思うが、事業の実施に当たって瀬

	谷区の中ではどのような課題があるのか伺いたい。 松岡地域振興課長：１月現在、瀬谷区には 2,102 人の在住外国人がいますが、これは 18 区中 17 番目の少ない数になっています。大きな特徴としては、そのうち 490 人がベトナムの方で約 23%を占めています。もう一つの特徴として、小中学校に通っているお子さんの割合が 18 区中 11 位ということですので、区内の在住外国人の方のうちお子さんの割合が比較的高くなっています。多くがいわゆるニューカマーで日本語支援が必要なため、国際学級の設置数も小学校で 11 校中８校、中学校で５校中３校となっており、設置の割合が全市平均よりも 30 ポイント程度高くなっています。課題としては、新たに引っ越してきた方であるため、どのようなニーズがあるのかなかなか分からない、接点を持つのが難しいというところがあります。的確な支援をしていくために、日本語支援をしているボランティアの皆さんや地域子育て拠点にも外国人の方も多くいらっしゃいますので、そうした方々と定期的に連絡会を開催しています。また、実際に該当の方にお会いできる機会として、子供向けのイベントをやりながらそこに来た親御さんからニーズを把握するということを今行っています。来年度に向けては、定量的な調査として瀬谷区で初めて在住外国人向けのアンケートを年度当初から行って、それを基に支援に繋げていきたいと思っています。また、全市で今 12 の国際交流ラウンジがありますが、瀬谷区にはまだ設置されておらず、拠点がないということもありますので、先ほど申し上げた取り組みを積み上げながら、国際交流ラウンジ設置に向けて進めてまいります。 川口議員：神奈川区に新しく国際交流ラウンジができると伺っている。瀬谷区は在住外国人の数が 2,102 人で 17 位とは言え、まさに花博等もあり、多文化共生をアピールする大きな機会であることから、国際交流ラウンジができることを願っているので設置に向けて進めてもらいたい。 　続いて読書との出会い応援事業について、改めて概要を教えていただきたい。 小泉読書活動推進担当課長：瀬谷図書館や区内小・中学校等と連携して事業を行っています。まず一つ目に、読書スタンプラリー事業として、区内小学生を対象に家の本や図書館で借りた本を１冊読むとスタンプがもらえるというものです。二つ目として、学校図書館等連携事業として、瀬谷図書館と区内の小学校や保育園、特別支援学校と連携をして、

	月１回本の配送を行っています。三つ目として、瀬谷区読書活動推進懇談会として、学校や区内読書活動推進施設、読書ボランティア団体等のネットワークづくりを図り、各施設での活動状況を共有しています。 川口議員：読書、図書館に関しては、来年度の横浜市の予算において新たな図書館像というところで、読書推進条例以外で初めて横浜市が読書に関心を持って予算化されているところである。瀬谷区としてどのような読書活動をしているのか、図書館の利用の方法について、今度は教育委員会だけではなく、都市整備局とも情報交換して、場合によってはハードを変えていく、或いは中のソフト面を変えていくといった提案ができるように間口が広がったと認識しているので、是非市役所と連携をとっていただきたい。 22 ページのオープンガーデン事業について、以前にも質問させていただいたが、改めて参加される個人宅の安全対策について伺いたい。 堀内区政推進課長：オープンガーデンに参加される皆様に説明会を実施して、事前の注意喚起をしています。またオープンガーデンのパンフレットに来場者向けのマナー重視のお願いを記載し、イベント当日は職員による会場への巡回を行っております。また、上瀬谷の工事も始まって瀬谷区にいらっしゃる方も増えておりますので、瀬谷警察署に対してイベントの開催内容を情報提供・共有するなど、会場の安全対策に努めさせていただいています。要望があった場合は、庭の開放期間であっても外からの見学のみが可能な庭として参加できるようにし、参加者の皆様が安心できるような対策をしています。 川口議員：見てくださるお客様の方々が楽しいだけではなく、参加してくださる、お花が咲いている場所を提供してくださっている方も安心して楽しんでいただけるような環境について、今瀬谷警察署との連携という話があったが、引き続き取り組んでもらいたい。 23 ページのイルミネーション事業について、毎年少しずつ恒例になってきていると思っている。少しずつバージョンアップもしているイルミネーション事業だが、区民の皆様からの反応があると思うが、なかなか自分の耳に届かないので、区役所として区民の皆様の反応はどのように把握しているか。 堀内区政推進課長：今年度で４回目ということで、だいぶ恒例行事になってきたかなというところですが、11 月に行ったせやマルシェで「今年

	もイルミネーションやるんですか」「今年は何色になるんですか」「楽しみですね」などとお声をいただいています。また、昨年、一昨年の開催時はコロナ禍で外出制限等がありましたので、その中で実施可能なイベントとして「地域の賑わい創出に貢献している」というような意見を地域の皆様からいただいています。今年度から南口でのイルミネーションをバスのロータリーに設置しましたが、「バスを待っている時に飽きないで済む」といった声もいただいています。地元の町内会の方からも好評で、現在電力がひっ迫した状況ですが、太陽光を用いた環境事業であることも区民の方から評価をいただいています。 川口議員：様々な面で区政を底上げしていくためには、マイナスをすべてゼロにするという事業もあれば、ゼロからプラスを生むという事業もあると思う。まさにこのイルミネーション事業はゼロからプラスを生む、多くの方に笑顔を生み出すという事業であると思っている。区民の皆様の反応は概ねポジティブな反応が多いと思うので、そういったものをしっかりと収集して次に次にへと繋げていく、そしてＧＲＥＥＮ×ＥＸＰＯに繋がるようにしていただけたらと思う。 久保議員：区役所へのアクセスについて、実際に車、タクシーで来られる方が乗降する場所がないということが課題であると思っていて、この声が実際結構多い。今すぐにできることではないと承知しているが、そのような話をいただいており、やっていただきたいのはやっていただきたいところである。区役所から帰るときに区役所前のＴ字型の交差点を見たら丁度タクシーが停まっており、車椅子を出して付き添いの方が身体の不自由な方を支えているのを拝見した。また、タクシーの事業者の方からもそういう声をいただいている。やはり乗り降りしやすい場所、環境は大事だと思う。 　もう一つは先ほど地域交通の話もあったが、瀬谷区はやはり道路の話と一緒で地域交通が不十分だという声が根強い。それで免許返納したいのだけれどもなかなかできないが、結局返納しますということもあったりする。公共交通で区役所に来ようと思うとまたそれがなかなか乏しい。だからやっぱり車で来るんだというようなこともある。それが難しくなるとタクシーを利用されたりするが、ロータリーが乗り降りするためには難しい設計になっているようなので、区役所として課題意識を持って、今後月日がかかるやも知れないが、検討いただきたいと申し上げ

	ておきたい。 植木区長：実は区長室から見ていても、Ｔ字路のところで丁度タクシーをお待ちになっている方がいらっしゃって、特に雨の日は本当にご苦労されているという状況は承知しています。入口のところまで車回しでなかなか入れないという構造になっていますので、せめてタクシーを待つ場所を作れないかということで、つい先日、タクシーが来たことがちゃんと分かるようにロータリーにベンチを設置させていただきました。交差点の中に停車させることはなかなか難しいということは承知していますが、これから様々な方が来庁される機会が増えてくると思いますので、何か良い手がないか引き続き検討していきたいと考えております。 久保議員：警察との連携もあると思うが、よろしくお願いしたい。
備　　考	